

「加賀立国 1200 年」を契機とした地域の歴史 P R と学びの場創出

指導教員 金沢学院大学 准教授 戸根比呂子

参加学生	4 年	青木有佳	草間智輝	塩井悠仁	田村望咲	土肥駿亮
		鳥越真由	中谷幸奈	又多隆介	宮村杏菜	山谷一水
		横井里奈				
	3 年	大澤耕史	織田惟吹	上條智也	神村勇翔	小倉謙
		小林光成	小林大晃	高柴ひかる	滝澤広大	竹松孝真
		豊島伊織	中川剛志	中島美優	中野芽楓	東山颯真
		法土莉子	松田亜斗夢	大江寧音		
	1 年	大野理桜	白江瑞希	山崎美鳴		

活動にご参加、ご協力くださいました、

「南加賀遺跡魅力発信委員会」

のみなさまに感謝申し上げます。

「加賀立国1200年」を契機とした 地域の歴史PRと学びの場創出

(金沢学院大学戸根ゼミ 連携団体：小松市)



活動目的

小松市では古代加賀立国1200年となる2023年を機に、能美市とともに、関連する歴史文化の普及啓発を進めてきた。地域住民も、「加賀立国1200年遺跡魅力発信委員会」を結成し、地域の歴史をPRするための活動を行ってきた。

そこで金沢学院大学の考古ゼミも活動に参加することで、地域の歴史をより積極的に発信していくことになった。特に、加賀立国の前時代にあたる古墳時代に注目し、小松・能美に広がる一大古墳群を、古代のにぎわいの場を育んだ遺跡と捉え、古墳群を中心に活動を行うこととした。2024年度は、加賀立国1200年を一過性のイベントに終わらせないよう、今後の展開も見据えて事業を実施した。

活動①

南加賀こふんカード集めの実施



第1図 完成した
古墳カード

【活動内容】

昨年度の古墳群活用案を踏まえ、より効果的と判断した「古墳カードin南加賀」(今回「南加賀こふんカード集め」に改称)の実現に向けて企画・編集を行った。グループごとに作成した企画案に、小松・能美両市からの要望を加え、今年度は4古墳でスタートした。

【成果】

10月20日より「南加賀こふんカード集め」のイベントを開始した。前週に学園

祭でチラシ配布・パネル展示によるイベントの周知を行い、初日には能美ふるさとミュージアムの古墳関連イベント会場にて学生自身が配布を行い、一定の集客を得ることができた。

今後古墳の種類を増やし、同じ古墳でもレアカードなどのバリエーションを増やすことで再来訪を期待できる。また、カード集めを楽しみながら古墳に対する学習効果も期待できる。



第2図 完成したチラシ

まとめ

- ・SNSや学園祭での情報発信・現地説明会の開催・新聞報道により、「加賀立国1200年」以後も地域住民らが古墳群へ足を運ぶ機会を設けることができた。
- ・発掘調査の実施・報告書の刊行により、今後の活用・学術的検討に耐える成果を提供することができた。
- ・考古学を専攻する学生と地域住民の協働による、遺跡でのフィールドワークが実現し、調査成果が地域に還元され、役立ったことを実感する得難い機会となった。

活動②

河田山9号墳の発掘調査

【活動内容】

2024年の調査は6日間行った。今回の調査では、9号墳の東辺の周溝を確認するための発掘を行い、古墳の規模を把握した。

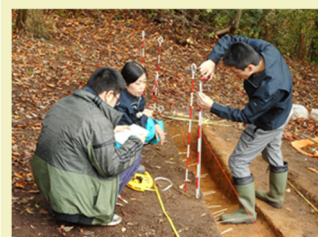
また、昨年度、調査が不十分であった箇所での測量調査も行い、25cm間隔で標高45.000～47.450mの等高線を引き、測量を行い図化した。

【成果】

発掘調査の結果、東辺の周溝と思われる溝を確認した。昨年度の西辺周溝も併せて考えると、墳丘規模は一辺が約13mと推定できた。



第3図 発掘調査の様子



第4図 土層断面を図化
している様子



第5図 現地説明会の様子

しかし、斜面の途中で周溝があることは不自然であり、さらに東で古墳の裾が見えてくる可能性もあり、この場合、一回り大きい古墳となる。

また、新たに石材が2箇所露出していることを確認した。12号墳と33号墳の石室と同じ

凝灰岩という石材であることから、横穴式石室に用いた石材の可能性が一層高まった。

なお、調査には地元住民による遺跡魅力発信委員会のメンバーも参加し、学生と住民の協働による調査となった。

来年度の計画

- ・古墳群活用策の「南加賀こふんカード」集めについて、配布状況・改善点の検証、新たな古墳でのカード作成、収集枚数に応じた景品の検討などを行う。
- ・発掘調査の継続、現地説明会での公開、報告書の刊行、活用案の提案を継続的に行う。

【参加学生】 計32名 青木宥佳・草間智輝・塩井悠仁・田村望咲・土肥駿亮・鳥越真由・中谷幸奈・又多隆介・宮村杏葉・山谷一水・横井里奈(以上4年生)、大澤耕史・織田惟吹・上條智也・神村勇翔・小倉謙・小林光成・小林大晃・高柴ひかる・滝澤広大・竹松孝真・豊島伊織・中川剛志・中島美優・中野芽楓・東山颯真・法土莉子・松田亜斗夢・大江寧音(以上3年生)、大野理桜・白江瑞希・山崎美鳴(以上1年生)

1. 活動の要約

本事業では小松市・能美市に所在する古墳を題材に、地域の歴史PRのための活動を行った。昨年度提案していた両市内古墳群の活用策のうち「南加賀こふんカード集め」について、企画の整理とカード案の作成を進め、10月より試行することができた。また、小松市指定史跡である河田山9号墳の発掘調査を実施し、加賀国府の地盤となった河田山古墳群の基礎データを作成した。成果は現地説明会で報告したほか、ゼミのX（旧Twitter）等を通じて情報発信した。

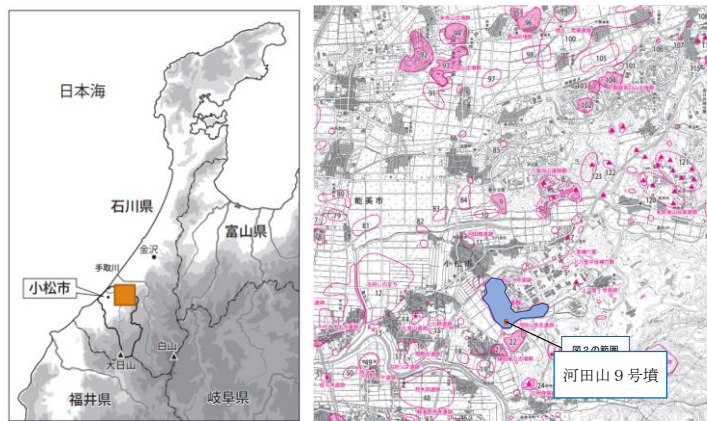


図1 主な活動場所

2. 活動の目的

小松市では加賀立国1200年となる2023年を機に、能美市とともに、関連する歴史文化の普及啓発を進めてきた。そして地域住民からも協力を得て、「加賀立国1200年遺跡魅力発信委員会」（その後「南加賀遺跡魅力発信委員会」に改称）を結成し、地域の歴史をPRするための活動を行ってきた。そこに、金沢学院大学の考古学ゼミも活動に参加することで、地域の歴史をより積極的に発信していくこととなった。特に加賀立国の前時代にあたる古墳時代に注目し、小松・能美に広がる一大古墳群を、古代のにぎわいの場を育んだ遺跡と捉え、古墳群を中心とした活動を行うこととした。

2024年度は、加賀立国1200年を一過性のイベントに終わらせないよう、今後の展開も見据えての事業実施を念頭に置いた。

3. 活動の内容

今年度は、古墳群活用策として「南加賀こふんカード集め」の企画・編集、古墳活用の基礎データ作成のための河田山9号墳の調査の継続、現地説明会等による古墳群の周知、の3点に取り組んだ。

①「南加賀こふんカード集め」の企画・編集（5～9月）

昨年度の活用策提案を踏まえ、より効果的であると判断した「古墳カード集め in 南加賀」（企画化の過程で「南加賀こふんカード集め」に変更）の実現に向けた企画・編集を行った。

5～7月にはグループごとに企画案の整理、対象古墳の選定、カード案の作成等を進めていき、小松市・能美市職員同席のもと、発表会を行った（7/11）。

企画案の段階では、古墳をイメージしたキャラクターの創設や手書き風のカードとする案、カードをランダムに配布する案、古墳の種類によって「得点」や「ランク」をつける案、カードと併せてスタンプも集める案なども挙げられた。最初にカード配布を実施する古墳については、小松市河田山古墳群の特色の1つである「切石積横穴式石室」を見学することができる河田山12号墳と、県内最大級の前方後円墳である能美市秋常山1号墳が相応しいと、ほぼ全てのグループで意見が一致した。

これらの企画案は、両市職員よりいただいた講評を踏まえ、8～9月の企画編集会議でブラッシュアップしていった。両市からの要望もあり、小松市矢田野エジリ古墳、能美市和田山1号墳も追加した4古墳で今年度はスタートすることとした。将来的にはカード集めの特典としての景品配布なども想定し、スタンプも押印するという制度とし、10月より、チラシ及びカードの配布を開始している。

なお、アンケートでは「埴輪でライトアップ」が1位だったが、

- ・実際に埴輪を作成・焼成したが、予想以上に作成に時間がかかった（大学生でも4～10時間程）。

- ・設置を検討していた河田山古墳群で埴輪が出土していない。
 - ・小松市内で埴輪が出土した古墳（矢田野エジリ古墳）は、埴丘が残っていない。
 - ・イベント当日のみの集客となり、一過性となる可能性が高い。
- といった事情から、今回は実現を断念した。

②河田山9号墳の平板測量調査・発掘調査の実施（10～11月）

昨年度の調査により、西側周溝の一部が再確認できたこと、埴丘の測量調査が完了したことから、今年度は東側周溝の調査による埴丘規模の確認を目的とした。発掘調査は考古学の学びを活かしたフィールドワークとして、学生と小松市職員のほか、南加賀遺跡魅力発信委員会のメンバーも加わり、学生と住民の協働による調査が実現した（10/26、11/4・9・10・23・24）。

調査にあたっては、小松市より、地域住民・関連部局（文化振興課・緑化公園課）との連絡調整、休憩や道具置場の提供（加賀国府ものがたり館、手洗いあり）、関連遺跡報告書・測量データの提供等を得た。

③活動を通した古墳群の周知（随時）

活動状況は、ゼミの SNS（X：旧 Twitter）や本学学園祭、現地説明会という形で情報発信をしたほか、随時、新聞報道等で取り上げてもらい、古墳群の周知へとつなげた。

4. 活動の成果

＜活動結果のまとめ＞

- ・SNS や学園祭での情報発信、現地説明会の開催、新聞報道等により、各方面からの周知活動を進めることで、「加賀立国 1200 年」以後も、古墳群の活用イベントをとおして地域住民らが古墳群へ足を運ぶ機会を設けることができた。
- ・河田山 9 号墳の発掘調査の実施、調査成果報告書の刊行により、今後の活用や学術的検討に耐える成果を提供できた。
- ・考古学を専攻する学生と地域住民の協働による、遺跡でのフィールドワークが実現し、調査成果が地域に還元され、役立ったことを実感する得難い機会となった。

＜事業の成果＞

①「南加賀こふんカード集め」の実施（10月20日～）

カード集めイベントの第 1 弾を開始することができた。前週には学園祭にてチラシ配布・パネル展示によりイベントを周知し、初日（10/20）は能美ふるさとミュージアムでの古墳関連イベントの会場でブースを設けて学生自身がカードを配布した。来場者からは、「古墳の中が見られて貴重な体験ができた」「久しぶりに古墳に足を運ぶ機会になった」といった反応も聞くことができた。

翌日以降は、小松市埋蔵文化財センター、小松市加賀国府ものがたり館、能美ふるさとミュージアムの各施設においてカード配



図2 古墳カード集めの企画・カード案発表会



図3 古墳カード集め企画編集会議



図4 古墳カードの配布



図5 河田山9号墳発掘調査



図6 河田山9号墳現地説明会



図7 「南加賀こぶんカード集め」のちらし

③活動を通した古墳群の周知

現地説明会当日（11/23）はあいにくの天候であったが、加賀国府ものがたり館内で解説後、雨の止み間に現地を見学いただくことができた。参加者は約30名であった。現地では、見学者より学生へ直接質問をする場面などもあり、見学者からは、「奈良や大阪だけでなく身近にもこれほど素晴らしい古墳があることに気付くことができた」、学生からは、「自分たちがやってきたことに対して興味を持ってもらえることの素晴らしさに気付いた」といった感想が挙げられた。

これらの取り組み状況については、新聞でも取り上げてもらい（計1回）、地域の活動として周知することができた。昨年度より始めたX（旧Twitter）でも、当初は10件程度のアクセスであったが、最近の情報発信に関しては毎回300件近いアクセスがあり、相応の周知に役立てることができている。

<貢献事項>

- ・これまでの計画を元に「南加賀こぶんカード集め」のイベントを実行に写し、地域住民が実際に古墳を訪れることで、古墳を活用するという機会を作ることができた。
- ・河田山9号墳の発掘調査により、今後の活用策の検討に耐える、学術的な調査データを提供した。
- ・現地説明会・学園祭・SNSや新聞社を通した情報発信により、古墳群や地域の取り組みを周知した。

5. 今後の活動計画

上記のとおり、遺跡の現地での活動は、学生の学びの場としても、地域の歴史PRの観点からも、効果的であることを確認できた。事業は4カ年計画であるため、最終年度はこれまでの成果を総括していくとともに、以後、活動が継続できるような仕組みや体制作りについても検討していきたい。

今年度は古墳群の活用策を実行に移すことができたが、その後の配布状況や改善点について、検証が必要と考えている。また、継続的に古墳群を活用していくためにも、新たな古墳でのカード作成や、カードの収集枚数に応じた景品の検討など、さらなる活用や再訪を狙った展開につなげていきたい。

また、河田山9号墳の範囲内容等確認のための発掘調査も継続していきたい。調査成果は、現地説

布を行っていただいている。

今年度は試行期間として、比較の見学しやすく、市内でも著名な古墳4カ所を選定したが、今後、古墳の種類を増やし、同じ古墳でもレアカードなどのバリエーションを増やすことで、再来訪が期待できる。また、カード集めを楽しみながら、古墳に対する学習効果も期待できる。

②河田山9号墳の発掘調査

発掘調査により、東側周溝の一部とみられる落ち込みを確認した。これまでの地形測量調査から推定していたとおり、1辺約13mの方墳であることを再確認した。ただし今回の調査では断定することができず、もう一回り大きな墳丘規模（15m前後）である可能性も残されたため、来年度以降、北東隅等での調査を継続する必要がある。また調査中に行った墳丘の清掃により、昨年度に加えてさらに、横穴式石室の一部と見られる石材を確認した。

調査成果は、下記③のとおり現地説明会を実施したほか、現在、調査成果の報告書を作成中である。

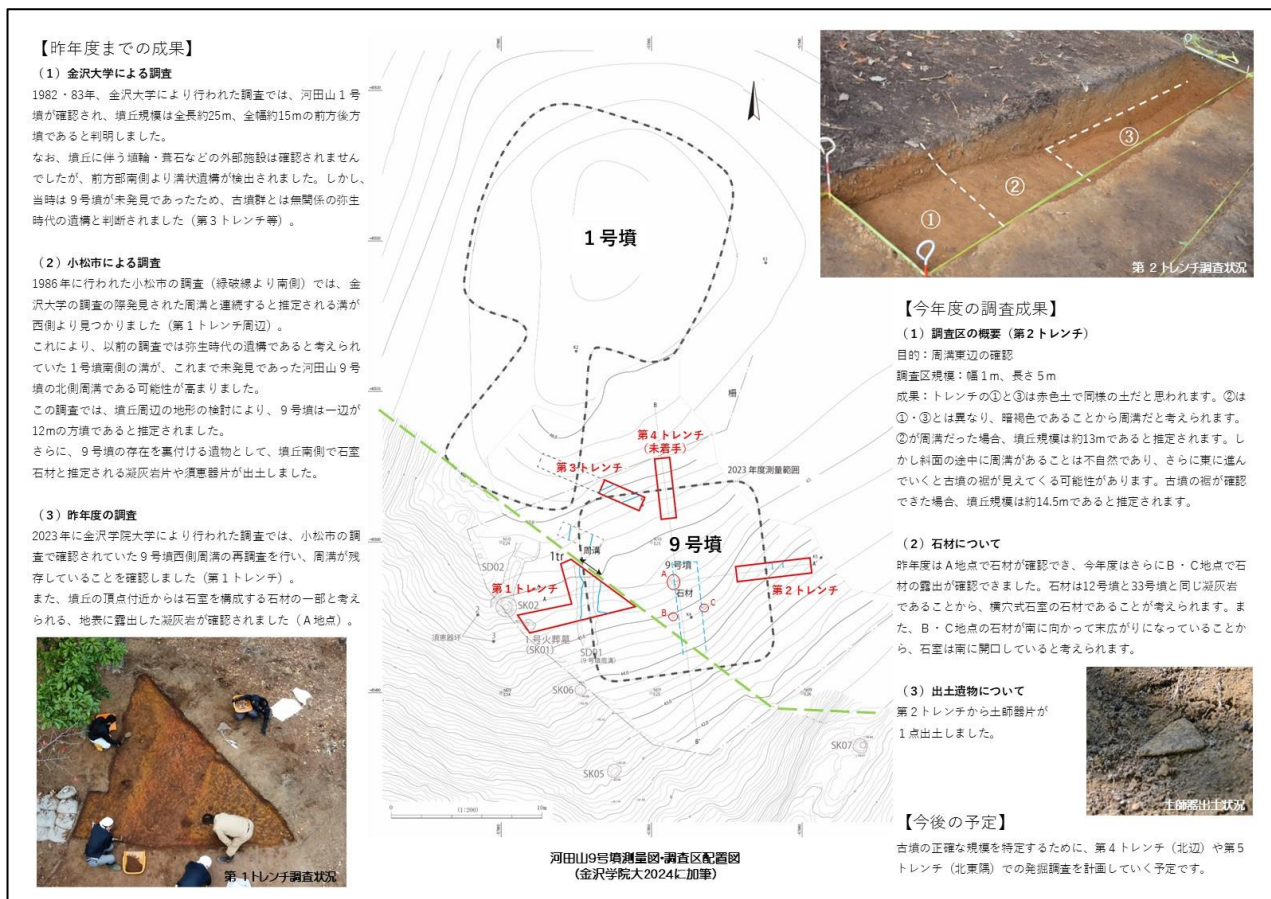


図8 現地説明会で配布した説明資料

明会での公開や、調査報告書としての刊行、これらを踏まえた活用案の提案等を通し、地域住民が古墳群を知るきっかけとなるような仕掛けづくりを継続的に行う。

6. 活動に対する地域からの評価

小松市担当者より、下記のとおり評価をいただいた。

昨年度に「加賀立国 1200 年」記念を迎えましたが、その機運を継続させるため、小松市、能美市、地元の歴史団体等が連携して新たに「南加賀遺跡魅力発信委員会」を結成しました。

地域課題研究ゼミナールとしての大学連携活動は3年目となり、具体的な取り組みを行えるようになってきています。地域の歴史PRでは議論を重ねて古墳カードの企画を実現してくれました。企画発表会に参加しましたが、自由でおもしろい発信ばかりで、完成度の高いカードに仕上がったと感じています。今後、対象古墳を増やしてより達成感をもたせる仕掛けや、単にカードを集めるだけではないクイズ企画やモニターツアーなどと連動させた展開が期待できそうです。

古墳調査については、学生の皆さんが主体となり、得られた成果が古墳の新たな価値づけにつながることはとても嬉しいです。今年度は、上記委員会が声かけした市民有志の遺跡なぞとき調査隊も調査に参加し、一緒に現地作業を行うことができました。調査隊の皆さんには、活動1年目の古墳測量調査でも学生と一緒に現地作業に参加してもらいましたが、実際の現地作業に携わることでより遺跡や古墳への関心度が高くなったように感じます。今回の調査参加者にも同様の傾向が見られ、今後もこの輪を広げていくことが課題だと思っています。

昨年度のアクティブフォーラムにおいて、①もう少し大きな視点でみんなが来たいと思う取り組みの実行、②SNSでの効果的な発信や3D等の最新技術の活用、③市民参加を促す機会創出などの課題があがっていましたが、今年度はその課題の一部に向き合えたと思いました。また次年度は計画最終年度となりますが、更なるステップアップを期待したいです。